

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成14年度 第2号

2002年9月30日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

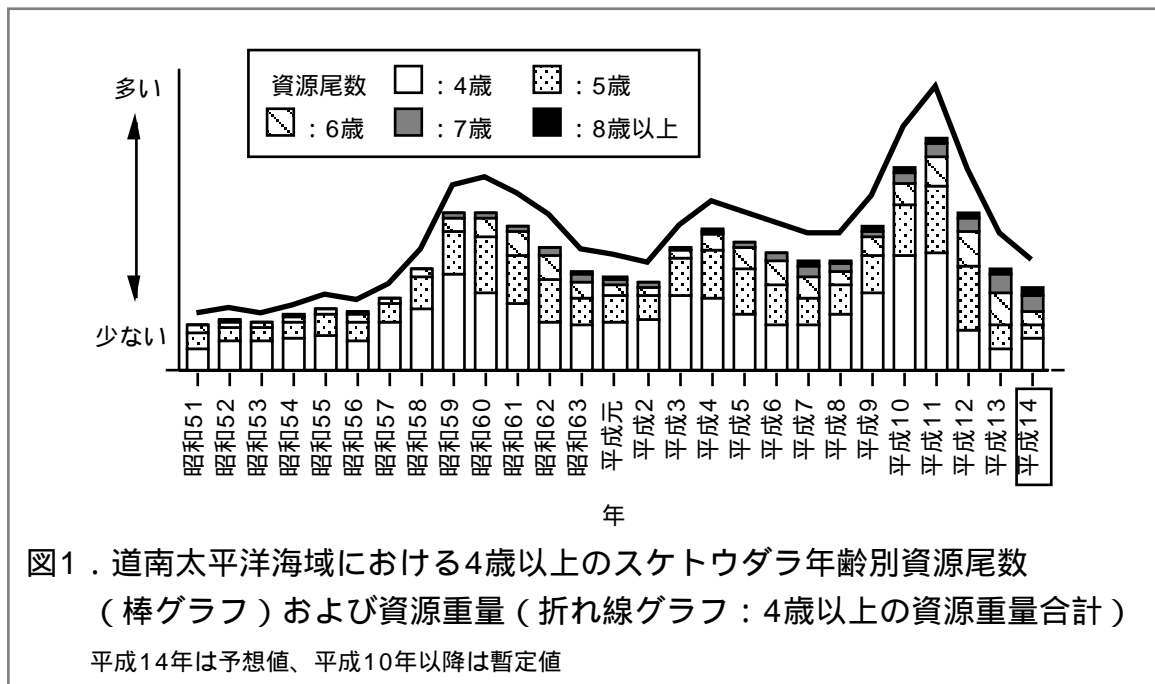
平成14年度道南太平洋スケトウダラ漁況の見通し

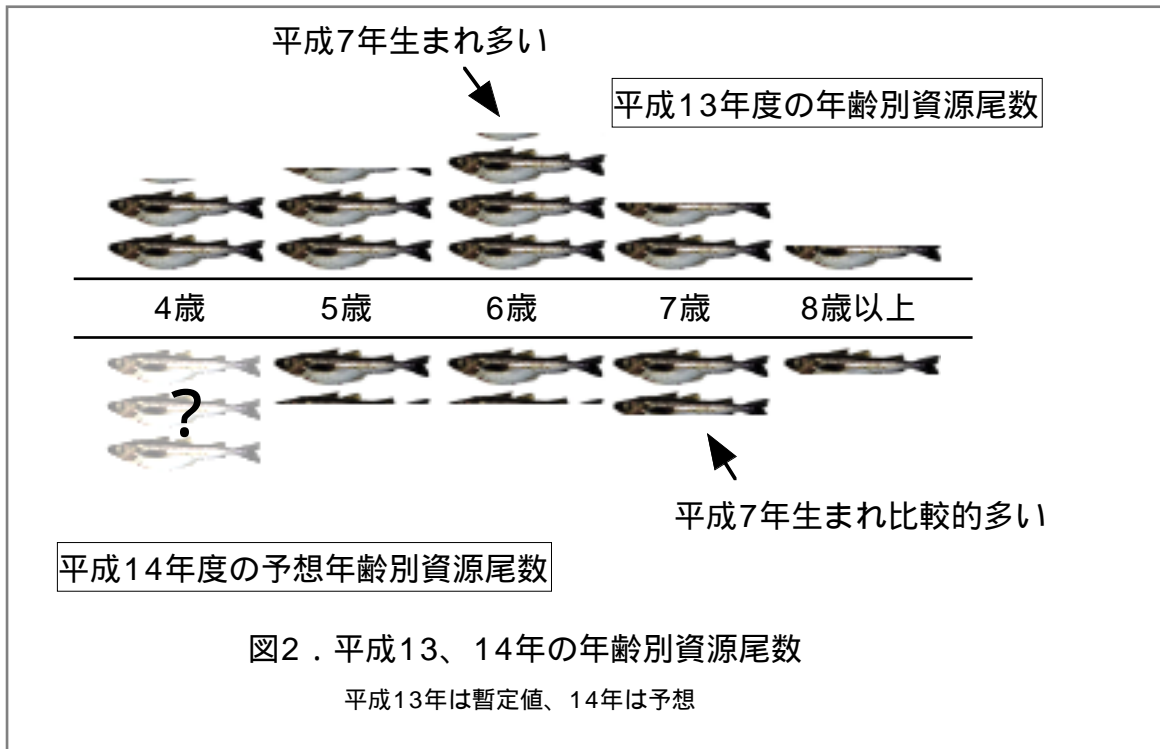
道南太平洋海域のスケトウダラ漁況の見通しについてお知らせいたします。

(内容は、各協議会総会、会議等で報告したものです。)

- ・資源は減少傾向にあり、来遊資源量（重量）は、前年の8割程度と推測されます。漁獲量も前年より減少し、平成8年並（総漁獲量で5万トン前後）の水準と考えられます。
- ・漁獲物のサイズのばらつきは大きくなるでしょう。
- ・魚群の来遊が遅れていると考えられるので、10～11月の漁獲量は昨年同様の低い水準となるでしょう。
- ・漁場は例年同様水深300m前後に形成され、漁期が進むにつれて浅い方へ移動するでしょう。

1. 平成10～12年までの高い漁獲を支えてきた平成7年生まれの魚は今年7歳となり、後に続く平成8～10年生まれ（6～4歳）の魚は少ないと予想されることから、資源は前年より減少し、来遊資源量は前年の8割程度にとどまると考えられます。資源の減少に伴って、漁獲量も減少し、総漁獲量（全漁業込み）で5万トン前後になると予想されます。





- 2 . 平成14年は5～7歳魚の年齢別資源尾数に大きな差がないと予想されるので、各年齢の魚が同じ様な比率で漁獲されると考えられます。このため、漁獲物のサイズのばらつきが大きくなると予想されます（図2）。
- 3 . 計量魚探調査結果から見て、平成14年も魚群の来遊が遅れていると考えられるので、漁期はじめの10～11月の総漁獲量は前年並みの低い水準にとどまると考えられます（スケトウダラニュース1を参照してください）。
- 4 . 魚群の分布水深は例年と大きく変わらないことから、漁場的水深は例年同様となると考えられます（スケトウダラニュース1を参照してください）。

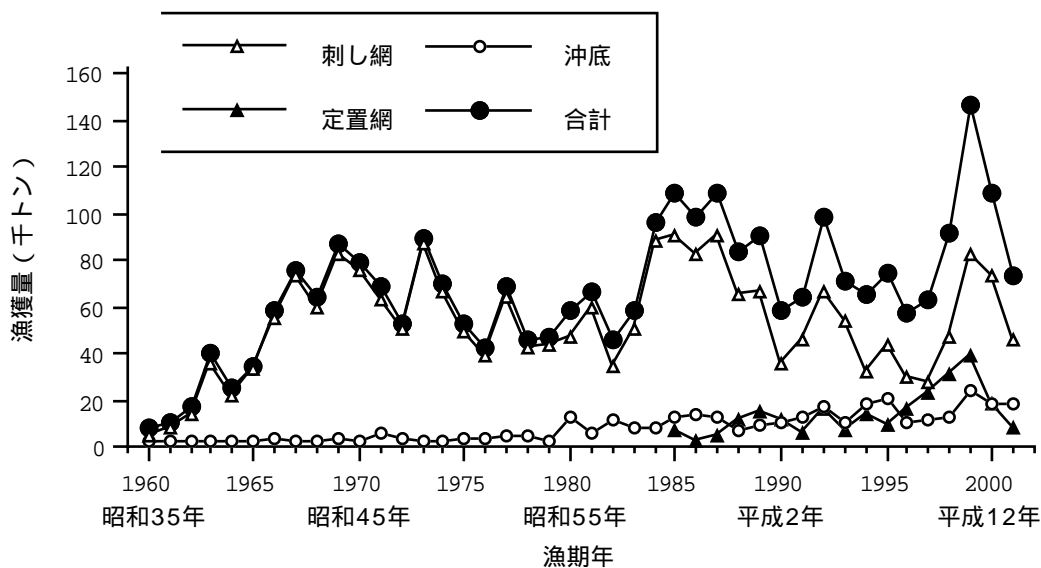


図 道南太平洋海域における漁業別スケトウダラ漁獲量